

継続した被災地支援体制の構築 ～行って支える、買って支える

津波により甚大な被害を受けた岩手県沿岸部。その復興に、内陸部の組合員や地域の人たちが継続して支援できる体制をどう構築するか。この間、いわて生協が継続して取り組んできた、「バスボランティア」や「ふれあいサロン活動」、「復興応援商品」の共同購入（宅配）カタログや店舗での取り扱いについて、組織本部・復興支援チーム、チーフの小野寺真氏にお聞きした。

コープの「バスボランティア」は、 2年間で計92回開催し、3,552人が参加

内陸から組合員がバスに乗り合わせて沿岸被災地へ行き、現地のニーズに対応した支援をする「バスボランティア」は、2011年6月から開始し、12年度は12月30日まで開催しました。13年1月～2月期は休止していますが、累計で92回、参加者は延べ3,552人です。このうち11年度は52回（1,900人、1回当たり36.5人）、今年度は40回（1,652人、同41.3人）となっています。

生協として「バスボランティア」を開催するきっかけは、震災直後に個人で被災地の支援活動に当たったボランティアの声でした。当時、個人で現地に向かいボランティアを行なうにはさまざまな制約があり、「支援に行きたいが、1人ではなかなか行きづらい。生協でバスを出してもらえれば参加したい」という声がありました。その頃、いわて生協では「コープ・ボランティアセンター」（以下、CVC）を設置し活動を開始。前述の声に応え、「バスボランティア」を企画してきました。

CVCは、あらかじめボランティア登録してもらった方に活動情報を提供し、参加を募って活動するスタイルで運営しています。しかし、スタート当初は登録者が少なかったこともあり、広く参加を呼び掛けたかったことや、社会的なアピールの必要性から、地元紙『岩手日報』の震災関連ページに無料で募集案内を掲載させていただき、申し込みの受け付けを行ないました。バス1台・定員40人



いわて生協 組織本部
復興支援チーム チーフ
おの であら しん
小野寺 真氏

(応募が多い場合には2台に増車)で運行しました。また参加者には、CVCにボランティア登録をしてもらい、メールやFAX、郵送などで、月1回発行のボランティアニュースをお送りし、次月の運行予定を直接お伝えするようにしました。参加者はさまざまですが、性別では男女半々くらいで、男性では定年後の方にたくさん参加いただいています。

なお、この運行費用は、日本生協連の震災助成金を利用しています。この2年間で約5,300万円をご支援いただき、これにより財政面での心配をせずに、「バスボランティア」や仮設住宅での「ふれあいサロン活動」に取り組むことができます。

現地のNPO関係者などと連携し、 継続して活動することで信頼関係を深める

12年度、「バスボランティア」で継続して取り組んだ活動について、いくつかご報告させていただきたいと思います。

その一つとして、陸前高田市広田町の佐藤さんの住宅跡地を造成し、花壇とパークゴルフ場を造っています(資料1)。二つ目が、おおつち大槌町大槌地区で、「菜の花プロジェクト」に取り組まれているかなやま金山さんの活動を支援して菜の花畑をつくり、植え付けから収穫まで取り組んでいます。また、大槌町ではきりきり吉里吉里海岸の清掃活動にも取り組みました。三つ目として、陸前高田市米崎町のNPO「再生の里ヤルキタウン」のくまがい熊谷さんの活動を支援し、竹やぶを切り開き、仮設住宅の皆さんが使える家庭菜園と花壇の造成を行なっています。なお花壇には、昨年12月にチューリップの球根2万個を植えましたので、今春には一面に咲き誇るチューリップを仮設住宅の皆さんが目に見ることができると思います。

このような活動のきっかけは、現地のボランティアセンターに寄せられた作業依頼でした。現地のボランティアセンターでは、こうした作業依頼と、いわて生協の「バスボランティア」募集人数に合わせて作業を割り振り、例えば、「今回の40人は、広田町での造成作業をお願いします」と、受け入れていただく形ができました。

また支援活動を続けるうちに、ボランティアセンターや支援依頼者にとって、毎回違う団体の支援を受け入れることの大変さが分かってきました。作業のたびにその内容を一から伝えなければならなかったり、前回の作業状況を知らないため、前の団体が整地したところを掘り起こす、植えた草木を抜かれるなど、作業から目が離せないことも多かったようです。ですから、「なるべく同じ団体に、継続して来てほしい」という声が、いずれの団体からもありました。

資料1 2012年度「バスボランティア」での支援活動（抜粋）

①陸前高田市広田町天王前
花壇とパークゴルフ場の造成・整備



②大槌町
吉里吉里海岸清掃活動



③陸前高田市米崎町 ヤルキタウンの近くに、仮設住宅の皆さんが使える家庭菜園を造成



ここで、仮設のみなさんが好きな花や野菜を栽培。会話も弾みます。

④陸前高田市 「はるかひまわりの種プロジェクト」



色彩に乏しい国道沿いにひまわりを植樹し、地元の方、ボランティアをひまわりで迎えます。

資料提供：いわて生協

いわて生協では継続して「バスボランティア」を開催してきたこともあり、やがて逆指名のような形で支援を求められることも多くなっていきました。中でも、大槌町や陸前高田市広田町などの4団体とは定期的に運行日程と人員を調整しながら、「今回は、その中の2(3)カ所に支援に入らせてもらいます」といった形で、活動を継続してきました。

このように支援場所をある程度固定することは、参加するボランティアたちにとってもメリットがあります。それは、参加者の中には30回～40回と参加されている方もおり、「現地の方たちと交流が深まった」「自分たちが支援してきた場所が、ここまで良くなった」など、その変化を実感できるということです。

「バスボランティア」の活動を通して、 新たなつながりがたくさん生まれています

私は、「バスボランティア」の成果として、次のようなことを感じています。一つ目として、震災前にはまったく生協の活動と関係の無かった人たちとつながりが生まれたことです。参加される方の中には、定年を迎えられた男性（多くは、組合員さんのお連れ合い）がたくさんいます。時間的余裕があることもあり、中には数十回参加という方も大勢おり、生きがいにもなっているようです。しかも、生協のバスボランティアの強みとして、いろいろな職歴をお持ちの方が集まります。特定企業や学生のボランティアと異なり、ブルドーザーやショベルカー、トラックの運転ができる方が必ずいます。また、肥料に詳しい方や、庭師のようなお仕事をされていた方など、支援活動に欠かせない人がおり、これらの方々が自主的に全体を取りまとめて活動してくれるので、本当に助かっています。

二つ目として、おおさかパルコープさんや、大阪よどがわ市民生協さん、ならコープさんなど、全国の生協からのボランティアとの協同があります。12年度も近畿圏から17回、沿岸部の被災地支援にご参加いただきました。日程と作業を調整できるときには、いわて生協の「バスボランティア」と合同チームで活動することができました。

そして、三つ目として、行政のボランティアセンターでは対応できない支援、例えば、収入につながるような農地の修復作業などにも、独自に支援に入ることができたことがあります。

なお、「バスボランティア」では、参加者には黄色いCO・OPのビブス（ベスト）を着けてもらいました。これにより支援作業や、年末の炊き出し支援などを行なっている時、「また生協さん来てくれ

ているんだ」と声を掛けられるなど、地域の方々との交流も生まれてきました。地域の中には、震災後に共同購入（以下、宅配）や移動店舗など、生協の利用を始められた方もいますので、その方たちにとって、身近なところで「CO・OP」を目にすることは、安心につながっていると思います。

「バスボランティア」3年目の課題について

この間、被災地の状況の変化により、「バスボランティア」の新たな課題が生まれています。その一つが、大型バスで現地入りするため、少人数、短時間で活動する作業が設定しづらいことです。それは、現場ごとに人を降ろして回るのは、地域的に3カ所が限界で、1時間くらいの小規模な作業支援を設定しにくく、40人が一斉に入れる作業に限られてしまうということがあります。

二つ目が、現地のニーズ、例えば、「明日作業したい」に対応できないことです。そのため、「ボランティアが来るまで作業を残しておく」というケースも出てきており、これは問題だと思っています。

三つ目が、漁業や農業など、天候に左右される作業の応援ができないかというものです。12年12月末まで行政のボランティアセンターでは、収入につながる作業には対応していませんでした。しかし、この1月からこれを引き継いだNPOのボランティアセンターでは、担い手不足のりんご農家や漁業の支援も行なうことを打ち出しています。このような支援活動に、いわて生協の「バスボランティア」がどう関わっていけるかを考えています。

四つ目が、これまで多くの方が高台の仮設住宅にお住まいでしたが、復興が進む中で、より便利な平地の仮設住宅に引っ越される方や、自分でアパートを探して移り住む方も出始めています。私としては、生協の配達のない土日に、その配送車を利用して、「バスボランティア」のメンバーがこの引っ越しのお手伝いをできないかと考えています。

また、いわて生協の「バスボランティア」参加者数は、2年目もほとんど変化はありませんでしたが、いわて生協と奥州市以外、県内で「バスボランティア」を運行するところは無くなってきています。そのため陸前高田市では、ボランティアの総数は激減しており、現地ボランティアセンターでは危機感を持っています。被災地では、まだまだ支援が必要であることをどう伝えていくかも重要な課題になっています。

「ふれあいサロン活動」は、 今年度計370回開催し、3,840人が参加

12年度、沿岸被災地の仮設住宅集会所などでの「ふれあいサロン活動」（以下、サロン活動）は、1月までに計370回開催し、被災地の皆さん3,840人が参加しています。なお、このボランティアとして、延べ、1,586人が参加しています。1カ月当たり約45回の開催となりますが、そのうち11回は沿岸部の組合員が主催し、残り34回は内陸部（盛岡や一関など）の組合員が行なっています。沿岸部では、けせん、宮古、釜石、久慈コープ（コープ＝組合員活動ブロック）が中心となって開催しています。いずれの場合でも、同じメンバーが同じ仮設住宅に入るようにし、継続した支援を行なうようにしています。

「サロン活動」で行なう催しは、さまざまです。健康体操もあれば、手工芸品作りなど、もちろん、お茶を飲んでくつろぐ「お茶っこ会」だけということもあります。なお当初は、「仮設住宅での生活の気分転換に、何か手仕事や手工芸品作りをしましょう」と、物づくりを多く開催していましたが、「手先が器用な人が集まる会」のような感じを与えてしまい、かえって参加しづらい人もいたようです。女性だからといって、皆、手芸好きではないのです。このことが分かってから、「サロン活動」では手作業だけでなく、極力バラエティーあふれるものとなるよう、ボランティアがこれまでの企画を考えて調整するようにしています。

生協の「サロン活動」の特徴、成果として、同じ仮設住宅に継続して入ることで被災者の方と親しくなり、会話も自然と広がっていることがあります。また、「お茶っこ会」は、行政や社会福祉協議会が主催するもありますが、生協ではボランティアの多くが内陸部からの参加で、被災地にあまり近すぎない人、地域の事情を知りすぎていない人であることも被災された方にとって接しやすい場合が多いようです。中には津波被害を受けていない地元の人から支援を受けることに抵抗のある人もおり、あまり近所を知っている人に対しては、話をしづらい、できない場合もあるようです。内陸部から支援に入るには片道2時間半以上かかり、活動時間も限られたものとなりますが、このような事情もあるので、内陸部からの支援活動を継続していきたいと考えています。

「サロン活動」を核に、12年度、 新たな取り組みもスタートしています

12年度からの「サロン活動」での新たな取り組みとして、「内陸へのリフレッシュツアー」が行なわれています（資料2）。これは、「サロン活動」を行なっている各仮設住宅をバスが回って参加者を乗せ、内陸部の温泉に行つて、大きなお風呂でくつろいでもらう企画で、大変喜ばれています。これまでに4回開催され、毎回30人～40人が参加しています。また、沿岸部のコープ主催による「内陸へのリフレッシュツアー」も行なわれており、仮設住宅にお住まいの方に声を掛けて、平泉に行ったり、産直先のりんご農家にりんご狩りに行ったりしています。12年11月に行なわれた、「げいびけい 狛鼻溪（一関市）の船下りツアー」には93人もの申し込みがあり、バス2台で実施しています。このようなツアーは、前者と合わせて20企画開催され、計593人が参加しています。

また、「被災された方の集まりへの補助」^{※1}も行なっています。これは被災地で、生協と直接関係のあるなしにかかわらず地域の集まり、例えば、卓球サークルや子育てサークル、コーラスグループなどに活動費の支援を行なうものです。生協の組合員が1人以上参加しているグループならば、1回当たり上限3,000円で会場費や材料費、お茶代など実費を補助、最大月4回まで受けることができます。これにも日本生協連からの助成金を使わせていただいています。この補助により少ない自己負担で活動できるようにすることで、地域の結び付きを強めることができると考えています。

資料2

被災地域からのリフレッシュツアー支援

気分転換できました

沿岸被災地の組合員がリフレッシュできる機会をつくろうと、「内陸へのリフレッシュツアー」を宮古・釜石・けせんコープが企画。6月から11月まで20企画に計593人が参加しました。



釜石の平田こ〜ぶ委員会は、11月1日、狛鼻溪の舟下り&コープ一関コルザでのお買い物ツアーを企画。93人が参加し、「船頭さんの話がおもしろくて久しぶりに大笑いした」と大好評でした。

資料出典：いわて生協機関紙『HELLOコープ』132（2013年1月）号。

※1 13年1月までに、延べ229グループに162万円を補助。

被災地で作られた手工芸品や、福祉作業所の商品を、宅配で定期的に取り扱っています

現在、いわて生協では仮設住宅などで作られた手工芸品、「復興応援商品」^{※2}を宅配カタログや店舗などで定期的に取り扱っています（資料3）。このような仕事づくり、手工芸品の制作・販売のきっかけは、被災された沿岸部のこ〜ぶ委員さんからの申し出でした。

※2 これには、宅配の商品カタログで定番となっている、沿岸部メーカーの製造商品は含まない。

この方は大船渡市で被災し、仮設住宅に入られていましたが、「支援物資として届けられた服の中には、誰も持っていかず残る服がありました。支援で寄せられた物を一枚も無駄にしたくないと思い、その生地を使ってこんなもの（手工芸品）を作ってみただけど、これを生協で供給してもらって、復興支援に充てることはできないでしょうか」とのことでした。この声を受けて、「出来たものを生協に送ってもらえば、あとはこちらで販売方法を考えます」と、応えることにしました。その後、まとまった数の生産ができるようになったことを受けて、宅配の商品カタログに定期的に掲載するようにしました。

また、これもこ〜ぶ委員さんからの申し出ですが、「震災で沿岸部の福祉作業所は大変みたい」との声がありました。詳しくお聞きすると、これまで福祉作業所ではパンやクッキーを作って、地域の企業などに定期的購入いただいていたそうですが、震災で企業が被災し、購入先がほとんどなくなり収入が途絶えてしまったそうです。震災前には、まったくお取り引きはなかったのですが、このような状況をお聞きし、宅配の商品カタログで定期的クッキーの取り扱いを行なうようにしています。

現在、仮設住宅などで作られた「復興応援商品」は、宅配の商品カタログで月1回（4品程度）、また年に3回、その「特集」（資料4）を組んで、組合員さんに購入支援を呼び掛けるようにしています。福祉作業所のクッキーなどについては、七夕やクリスマスの時

資料3

復興応援商品の販売で支援

利用することで支援を続けよう

被災地の復興プロジェクト団体や福祉作業所の商品、仮設住宅のグループの手作り品などを、生協まつりなどで積極的に取り扱っています。店舗では「復興応援商品コーナー」を常設。共同購入では「あい・ぱーく（年3回）」と「Week」で復興応援商品をご案内しています。また、コープとやま（16万円）や京都生協（3万円）などでも取り扱っていただき、10・11月度は合わせて590万円の利用がありました。



11月9日～12日、ベルフ山岸のリニューアルオープンセールでボランティアが復興応援商品を紹介し、販売。

資料出典：いわて生協機関紙『HELLOコープ』132（2013年1月）号。

資料 4

復興支援特別企（第2回）



あいはら〜く

2012年8月4週 | NO.49

	月	火	水	木	金
注文書提出	8/13	14	15	16	17
商品お届け	8/27	28	29	30	31

●商品のお届けは、ご注文の翌々週です。

利用することで
支援の思いを届けましょう。

いわて生協では震災直後から、被災地への支援と岩手の復興のために、募金やボランティア活動、製造を再開したメーカー・生産者の商品の取り扱いなどに協同の力で取り組んできました。その中の一つが、仮設住宅で暮らす方たちがつくった商品の供給です。「手づくり品の販売を通してやりがいをつくりたい」「仕事をつくって収入につなげたい」。どの商品も、自立と復興の強い思いが込められた商品です。

宮古市
かけあしの会

昨年7月、宮古の組合員さんなど有志が集まって設立しました。仮設住宅の方たちに仕事を提供し、収入が得られ、働く喜びや希望が持てるようにしたいと、支援活動を行っています。

2721
塩麹クッキー
23枚入り 税込 **300円**

宮古復興プロジェクト「かけあしの会」の新商品。宮古のお菓子屋さんが製造した、宮古活性化につながる商品です。◎5ヶ月
●原材料 / 小麦粉、バター、砂糖、アーモンド、卵、塩麹、パナコオイル

山田町
おみやげ

2722
するめチップ
10g 税込 **250円**
するめを薄くはしました。サクサクの食感。おやつ、おつまみに(◎90日)
●原材料 / するめ

2723
いわしチップ
10g 税込 **250円**
いわし(煮干し)を薄くはしました。サクサクの食感。おやつ、おつまみに(◎90日)
●原材料 / 煮干し(いわし)

大槌町
サンガ岩手

災害支援活動・傾聴ボランティア心の相談室などの活動を行い心の伴走者として活動していきたいという願いのもとに設立されました。7月に大槌北小学校横に「手づくり工房カフェ」をオープンし、たくさんの作品をここで販売しています。大槌にお越しの際はぜひお立ち寄りください。

2724
海の幸エコバック「ポップ」(中)
1枚 (約27.5cm×30cm 持ち幅5cm) 税込 **500円**

2725
がんばるぞうきん
1枚(約25cm×32cm) 税込 **300円**
大槌の仮設住宅のみなさんを中心に、心を込めて作ったがんばるぞうきん。
※作品によってサイズが多少違います。

大船渡市
大船渡中仮設がわいのハーモニ

「いただいた支援物資をひとつもムダにしたいくない」とアイディアを出し合い、いろいろなものをつくりました。お役に立てた、かわいかった、嬉しかったらうれしいです。

2726
つかむにゃん
1個(約12cm×7.5cm) 税込 **500円**
せんたくばさみ入りで、カーテンをはさみでできます。インテリアにもどうぞ。※色・柄はおまかせください。

2727
手ぬぐい帽子
1枚 税込 **400円**
帽の下のなかぶつで、汗を吸収。ちょとした直仕事にぴったりです。※色・柄はおまかせください。

陸前高田市
あすなるホーム&陸前高田手焼せんべい&AidTAKATA

あすなるホーム
ここでは障がいを持つ方が働いていますが、震災後は販売先がなくなり、何もできません。再開してからは生協からの注文もあり、「今日もたくさんの商品ができた」と、毎日働く喜びを感じています。

2728
ゆずまるクッキー
8枚入り 税込 **250円**
「北限のゆず」を使用したクッキーです。「初夏のコブのつどい」で好評でした。(◎90日)
●原材料 / 小麦粉、砂糖、無塩バター、ゆず、たんぱん、食塩

2729
しょうがクッキー
8枚入り 税込 **250円**
八木澤商店の醤油を使ったクッキーです。(◎60日)
●原材料 / 薄力粉、シュクレース、バター、ブラウンシュガー、卵、醤油、メイプルシロップ、黒糖、しょうが

陸前高田手焼せんべい
2730 手焼せんべい
10枚入り 税込 **1,350円**
埼玉県草加市および草加せんべい振興協会の支援で、陸前高田の新しい味として製造・販売をスタート。復興の一助を担っている商品です。(◎90日)
●原材料 / うちち(国産)、醤油、調味料(アミノ酸等)、胡麻、海苔、青海苔、海老(原材料の一部に大豆、小麦粉を含む) ※包装はしていません。

2731
結っこメモリ(USBメモリ)
1個 税込 **3,980円**
外装に樹齢270年余の高田松原の貴重な松を使用し、丁寧に仕上げました。記録として、美しい高田松原や3.11.復興のあゆみを映像で保存しています(約10分)。価格の15%を支援金として陸前高田市へ寄付します。パソコン・Windows Media Player プレイ / MP4 容量 4GB

AidTAKATA
2732
陸前高田松の木ストラップ
1個 税込 **400円**
価格の一部が陸前高田市への寄付金と、避難所・仮設住宅でお世話になった学校にお花を咲かせる「花いっぱい運動」の資金となります。

広域
一般社団法人SAVE IWATE

2733
三陸の和グルミ
約700g(税付き) 税込 **400円**

被災者からグルミを買い取り、支援しています。三陸の和グルミプロジェクトとして、全国で紹介されています。

共同購入では今年度、「あいはら〜く」(年3回予定)とWeek(毎月第3週)で復興商品を案内し、被災された方たちの力になろうと取り組んでいます。7月までの利用は、5,694点・184万円となっています。

- あいはら〜く(5月1週号).....3,195点・105万円
- Week(毎月第3週)7月まで.....2,499点・79万円
- 7月までの合計...5,694点・184万円

期に、仮設住宅の方々にお配りする手作りカードに添えるお菓子として利用しています。震災から丸2年となるこの3月11日には、いわて生協全店で来店プレゼントとして福祉作業所のシフォンケーキを利用させていただく予定です。

「復興応援商品」を作られている団体を いかに継続的に支援していくか

「復興応援商品」の供給は、11年度が約700万円、12年度はこの1月現在で約1,072万円となっています。今年度の供給高が伸びているのは、取扱商品が増えていることもありますが、それよりも全国の多くの生協に購入支援いただいたことが大きいと思います。コープかがわさん、コープとうきょうさん、コープかながわさん、京都生協さん、CO・OPとやまさんには共同購入の企画でお取り扱いいただいたほか、そのほかにも、各種イベントなどでお取り扱いいただいた生協もあります。

今後の課題として、「復興応援商品」を作られている多くの団体を、「いかに継続的に支援していくか」ということがあります。前述のように、商品カタログで定期的に数品目を取り扱っていますが、この方式ですと、「いつまでに、〇を〇個お願いします」と納期が短期間のため、かえって負担をお掛けする恐れもあります。そこで最近では、これまでに作られた作品の在庫をまとめて買い取らせていただく方法も始めました。

例えば、生協の集まりに参加いただいた方に販売する商品を発注する際には、「ここで作っている商品、どれでもいいので、まとめて〇個、〇円分買い取らせてもらいます」と、注文しています。実際、2年近く作っていると、中には「この商品は5、6個なら在庫がある」という商品もあるそうで、これらを無駄にしないよう、このような方式を取り入れています。

また供給動向から、商品づくりのアドバイスも行なっています。例えば、アクリルたわしやストラップなどを作られている団体は多いのですが、これらの商品は、一度お求めいただいた方に再度ご利用いただけることはまれです。そこで、「これらの商品よりも、最近はどういった商品の利用が多いので、作られてはどうでしょうか」と提案させていただくこともあります。

12年度、コープあいちさんや大阪いずみ市民生協さんでは、総代会記念品として「復興応援商品」を購入していただき、大変感謝しています。ぜひ、全国の多くの生協で総代会記念品や、店舗などのイベントでの先着プレゼントにご利用いただければと思います。しかもこのような企画ならば、「いつまでに〇個」ということがはっ

きりしていますので、各団体にとっても作業スケジュールが組みやすく、残数も出ないメリットがあります。

被災地の復興は、まだまだ道半ば。今後とも ご支援のほど、よろしく願いたします

これまで組合員さんも職員も、生協、コープを「生活協同組合」というフルネームで言うことはほとんどなかったと思います。しかし、震災後の私たちの活動を通して、私たちが生活を協同して支える組織であること、文字通り、「生活協同組合」であることを、あらためて感じてもらえたように思います。

また、復興支援活動を続ける中で、自分たちで地域を復興させていこうと立ち上がった人たちや、それを支えようと集まってくれたNPOの人たちとの協同を深めることができました。また震災前は、地域の人から見て、いわて生協といえば購買事業のイメージが強かったように思いますが、地域を良くするために大きな力を発揮できる組織であることを示せたと思います。

震災から2年が過ぎ、補助金が削減される中で、解散・撤退を余儀なくされた小さなNPOなどが増えています。その人たちが解散・撤退するのではなく、同じ目的を掲げる団体同士が集まり、新たなNPOや生協、ワーカーズコープなどとして活動を継続できるようにすることが大切だと思います。いわて生協もこれまでに合併を経験していますので、その手続きや、組織運営などでアドバイスをしていければと思います。

最後に、お願いとなりますが、全国には、旅行事業を行なっている生協さんも多いと思います。そうした生協では、ぜひ、岩手の被災地視察ツアーを企画し、来てほしいと思います。その際には、いわて生協としても現地の語り部さんのご紹介や、現地案内などのお手伝いをさせていただきたいと思います。現在、津波被災地の多くは「さら地」ですので、バスの中から見ただけでは伝わることは少ないと思います。だからこそ、被災地の現状を知るためには、それらの土地が以前はどんなところで、どんな人びとの営みがあったかを語ってくれる人の存在が重要だと思います。

また、仮設住宅などで暮らす人たちが作った「復興応援商品」や、岩手県の産品を、ぜひ全国の多くの生協で取り扱っていただければと思います。岩手まで来ることができる方は、限られていると思いますが、県産品の利用を通じた復興支援ならば、全国のどの生協でも可能だと思います。このような形で、岩手県の被災地、県内産業の復興をご支援いただければと思います。

補足資料

いわて生協の「被災者・被災地支援活動」

2013年1月度報告

1. 事業を通じた支援活動

<店舗事業>

(1) 移動店舗「にこちゃん号」

供給：千円

	11月度			12月度			1月度		
	客数/日	供給/日	客単価	客数/日	供給/日	客単価	客数/日	供給/日	客単価
宮古地区	73	97	1328	65	90	1393	62	92	1,495
釜石地区	96	103	1075	56	70	1251	58	78	1,349
けせん地区				101	110	1106	97	124	1,288

各号車とも供給高が増加しました。年末は利用人数の増はありませんでしたが、一人当りの利用金額がアップしました。専用の特注チラシを作成したことで特注も多く、オードブル、寿司、刺身が特に喜ばれました。年始は1/2から運行を再開しました。想定通り低調な利用でしたが、「助かる」というお声もいただき当てにされている方のご利用がありました。次年度も1/2から運行します。

		1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	101	102	103	104
		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
宮古	客数	86	48	69	65	81	68	57	86		31	36	50
	供給	124	81	97	92	137	124	113	168		47	50	66
	客単価	1,442	1,688	1,406	1,415	1,691	1,824	1,982	1,953		1,516	1,389	1,320
釜石	客数	52	52	43	47	56	68	32	43		26	25	34
	供給	77	62	57	69	88	121	52	86		28	34	38
	客単価	1,481	1,192	1,326	1,468	1,571	1,779	1,625	2,000		1,077	1,360	1,118
けせん	客数	125	98	91	91	127	106	77	138		77	56	85
	供給	180	135	113	114	198	180	124	265		99	74	94
	客単価	1,440	1,378	1,242	1,253	1,559	1,698	1,610	1,920		1,286	1,321	1,106

(2) 宮古市・山田町の無料お買い物バス運行

日本生協連の支援金で宮古市と山田町で運行している「無料お買い物バス」は、1日平均19人(前月度18.6人)の利用でした。年末は30人を超えるご利用をいただきましたが、年始は1桁のご利用でした。11月度でコース見直しを行なった八木沢・佐原コースの乗車人数は増加しています。いわて生協機関誌の『HELLOコープ』と合わせて地域へのお知らせを行ないました。新年度のコース編成の検討に入っています。

(3) 復興支援商品の利用促進

- ①水産部門の復興支援商品の利用は、合計で1,932万円(前月度1,888万円)でした。産直アイコープ真崎わかめは455万円(2010年度比128%)、アイコープ漬魚が456万円(2010年度比150%)でした。
- ②日配・グローサリー部門の復興支援商品の利用合計は1,068万円(前月度591万円)、赤武酒造(大槌町)商品の利用は94万円(2010年度比1,215%)でした。いずれも

年末・ギフト展開で利用増となりました。

- ③マリンコープDORAのドラ復興商店の利用は1日平均4万円でした。12月度から取り扱いをスタートした山田せんべいは1,500点を超えるご利用です。引き続き復興したメーカー・生産者の情報や取り扱い要望が直接寄せられており、品揃えを拡大しています。

＜共同購入事業＞

(1) 仮設住宅の共同購入利用者数と、加入利用率

1月度の被災地域における仮設住宅での加入は、1万4,303戸に対し2,563世帯（前月差+4世帯）で、実仮設住宅戸数に占める加入率は18.7%となります。被災地域の支部別では、宮古支部922世帯（前月+1）、けせん支部669世帯（前月+1）、釜石支部913世帯（+2）。

(2) 被災者支援サービスの個配配達料優遇（割引）利用者数

被災者支援サービスの登録状況は、登録人数4,944人（前月差-33）で、支部別には宮古支部1,305人（前月差-10）、けせん支部1,583人（前月差+1）、釜石支部1,786人（前月差-16）でした。前月からは全体で33人減少しました。被災者支援サービスに登録した方のうち、2012年度の新規加入と同時に登録された方が924人（前月差-21）で、2012年度の個配累計加入に占める新加入者の登録構成比は11.4%となります。

(3) 復興商品企画

商品名	実績数	計画比 (%)	供給高 (円)
サンガ岩手 がんばるぞうきん1枚	275	275	82,500

1月度は、1月3週ウイーク本紙で掲載しました。この商品は今年度3回目の企画ですが、仮設住宅に住むお母さんの手作り感と手縫いならではの風合いが好評で、8月3週の61点、8月4週の55点を大きく上回る「275点」ものご利用をいただきました。また、日本生協連の別チラシでは、サンネット6県で復興商品を企画し、大槌町の「おおちゃん人形」「こづちちゃん人形」「陸前高田一本松クリアファイル」を取り扱い、東北6県へ広げ多くの方にご利用をいただきました。

申込番号	商品名	価格	受注数	供給高(円)
1087	限) 1月3週お届け) 大槌町おおちゃん人形1個	420	145	60,900
1089	限) 1月3週お届け) 大槌町こづちちゃん人形1個	420	157	65,940
1088	1月3週お届け) 陸前高田一本松クリアファイル	300	1,495	448,500

2. 組合員活動分野 “「がんばろう! 岩手」の取り組み推進”

(1) 沿岸3コープ（地域）の取り組み

- ①沿岸地域から「内陸へのリフレッシュツアー」・・・1月度までで23企画670人参加。

◇宮古コープ13企画、釜石コープ6企画、けせんコープ2企画、ふれあいサロン2企画実施しました。

◇今後、けせん・ふれあいサロン温泉企画（仮設住宅の自治会長さんの希望で開催）、釜石大槌こ〜お委員会大迫ひなまつり見学企画（90人近い申し込み）など予定されています。

②けせんコープ

◇「ジャー・パンファンコンサート」（1/16開催、410人参加）を開催しました。コンサート終了後「とてもよかった。ありがとう」の声がたくさん寄せられました。高田高校吹奏楽部や支援団体の皆さんも招待し、大変喜ばれました。また、ジャーさんに永沢応急仮設住宅(大船渡中学校)の手づくり品をプレゼントしたところ「これからの演奏会で販売するために」と注文をいただきました。

(2) 全体での取り組み

①CVC（コープ・ボランティアセンター）の取り組みは、1月度はナン

（1月度までで52企画を実施し2,122人のボランティアが参加しました）

◇バスボランティア企画は1・2月度はお休み。

4月度～12月度で41回開催し、1,652人が参加しました（スタート時からの累計は92回開催、3,552人の参加）

◇CVCニュースを発行し、ふれあいサロン、ひなまつりカードセットのボランティアを募集。

②ふれあいサロン

◇1月度までに370回開催し3,840人に参加いただきました（ボランティア参加は1,586人でした）

◇1月は9日から再開しています。次年度の活動に向けて、サロン参加者の要望聞き取りをチームリーダーが進めています。

◇また、ふれあいサロンの運営強化のためにボランティア交流会を花巻で1/29に開催します。

(3) 内陸13コープでの取り組み

①被災地訪問ツアー

◇1月度は開催実施ナシです。（12月度までで、12コープで25企画を実施し729人参加されました）

②移動販売車購入支援募金は、3,523万6,434円になりました。

◇いわて生協分 541万281円。

◇全国の生協のみなさんからの支援分 2,982万6,153円

新たに、コープあきたさん175万円、秋田県北生協さん43万円、エフコープさん200万円のご協力をいただき、20生協2団体となりました。他に1生協さんからお申し出をいただいています。

③復興商品の取り扱い

共同購入ではサンネット企画で「一本松クリアふあいる」等3品目で1,803点、57万7,860円の利用がありました。（累計で3万7,373点、9,998万3,370円の利用：組織本部取り扱い分）。

④ 「ひなまつりカードを贈ろう！」企画

『HELLOコープ』（いわて生協の機関誌）1月号、1/21からの共同購入チラシで募集の呼び掛けをスタート。2/10締め切り、2/18からカードを配布・お届けする計画です。（これまでの「カード贈ろう」企画にご協力いただいていた7生協さんにもお呼び掛けしています）

(4) 被災地の住みよい街づくりや生活再建に向けた取り組み

① 「消費者行政の充実をめざすネットワーク岩手」主催の「やさしい制度説明会」開催に協力してきました。今後の活動として、3月のワンストップ相談の開催を検討・準備しています。

② 「福祉灯油」の早期実施、健康保険や介護保険の免除の継続について、首長懇談会で引き続き要請を行なってきました。

(5) 他生協からの支援や全国の生協への発信など

① 2/1に被災地3生協支援活動交流会を開催しました。いわて生協、みやぎ生協、コープふくしまの組合員活動責任者、支援活動事務局、日本生協連など16人が参加して開催しました。ふれあいサロンをはじめ支援活動の課題などを交流しました。

② 全国の生協への発信は、CO・OPとやまさんでの講演（理事長対応）、日本生協連『co・op navi』誌取材など。

③ 全国の生協からの支援は、移動販売車支援募金（3生協さんから）のほか、ふれあいサロンのお茶とお菓子支援（四国4生協さん、コープしずおかさん）、復興応援商品の販売支援（京都生協コープくらしの助け合いの会）などをいただきました。